

HONG KONG LINER



5月の選挙で香港特別行政区第6期行政長官に選出され、会見する李家超（ジョン・リー）氏（写真・中央）

李家超次期行政長官、希望に満ちた新時代を約束 「一国二制度」の強みを大いに活かし、世界と中国をつなぐゲートウェイとしての香港の役割をさらに強化

5月8日に行われた第6期行政長官選挙で李家超（ジョン・リー）氏が当選しました。7月1日に香港特別行政区政府トップの行政長官に就任します。李氏は香港の新たな章をスタートさせ、希望と機会、調和に満ちた、思いやりのあるオープンで活気あふれる都市にしていくことを約束しました。

「今年、香港特別行政区は設立25周年を迎える。『一国二制度』、『港人治港（香港人による香港統治）』、高度の自治の原則を、これからも全面的かつ正確、確実に実践し、香港の長期的な繁栄と安定を維持しなければならない」と李氏は語りました。

また、「一国二制度」の下での強みを最大限に活かしつつ、香港特別行政区は積極的に国の発展との一体化を図り、広東・

香港・マカオ大湾区がもたらすチャンスをつかむとともに、国の急速な発展から生まれる恩恵を得ていくべきだと指摘しています。

さらに、香港は包摂性、多様性、開放性といった価値観を掲げる国際的な大都市としてのその地位を十分に活用しながら、世界とのつながりを拡大し、より良いビジネス環境を作り出すと同時に、総合的な競争力を向上させる必要があると話し、世界と中国の間のゲートウェイおよび架け橋としての香港の役割を一層強化するべきだと述べました。

香港特別行政区政府で李氏は2017年から保安長官を、昨年6月から今年4月までは政務長官を務めました。

香港は「世界金融センター指数」で3位を維持

ニューヨーク、ロンドンに次ぐ順位。香港が引き続き世界有数の金融センターであることを改めて確認

香港は、英国のZ/Yenと深圳の中国総合開発研究院が3月24日に発表した「第31回世界金融センター指数(GFCI)」で、前回に続き世界第3位でした。

報告書は世界をリードする金融センターとしての香港の地位と強みを改めて確認し、ビジネス環境、人的資本、インフラ、評判など、さまざまな面における競争力について、香港に上位の評価を与えています。

これを受けて香港政府の報道官は、「『一国二制度』下でのアドバンテージ、法の支配の伝統、市場志向で国際的なビジネス環境といった香港独自の優位性と、インフラ面での強力なサポート、国際基準に沿った規制の枠組み、あらゆる種類の金融商品、そして情報と資金の自由な流れが相まって、世界でも有数の金融センターとしての香港の地位を引き続き確固たるものとしている」と述べました。

GFCI報告書は2007年以来、毎年3月と9月に発表されており、今回は世界119の金融センターが評価対象となりました。首位はニューヨークで、ロンドン、香港、上海がこれに続きました。



IMF、香港の経済回復と金融制度の安定性を認知

香港の金融部門はコロナ禍でも力強く成長。気候変動対応における大幅な進歩や政府の取り組みも評価

国際通貨基金(IMF)は3月発表の報告書で、香港は回復力のある金融システム、健全なマクロプルーデンス政策、堅固な規制と監督の枠組みを備えた世界的な金融センターであるとの認識を改めて示しました。

香港の金融部門は、パンデミック下にあっても力強い成長を続けているとIMFは評価。過去10年間に香港の気候変動

への対応が大きな進歩を遂げたことを称賛し、グリーンでサステナブルな金融エコシステムを強化する政府の継続的な取り組みを認めています。

IMFはまた、香港が大規模な財政出動によって経済的打撃の影響を緩和し、景気回復を加速させたことを歓迎しました。

香港は5月から非香港居民の入境を再開

ワクチン完全接種者なら海外からも入境可能。6月からはトランジット時の陰性証明書の提示が不要に

5月1日から、海外から到着する非香港居民の香港への入境が許可されました。非香港居民にも、香港居民と同じ搭乗・隔離・検査要件が適用されます。

日本を含め海外から香港に到着する旅行者で入境が可能なのはワクチン接種を完全に済ませた人であり、入境後は指定隔離ホテルでの7日間の隔離とそれに続く7日間の自己観察が義務付けられています。また入境に際しては、搭乗前48時間以内に実施されたPCR検査の陰性証明書と最低7泊分の指定隔離ホテルの予約確認書類が必要です。

旅行者は香港の空港に到着後、「検査と待機」措置に基づき空港内で迅速抗原検査とPCR検査を受け、迅速抗原検査

の結果が陰性であれば、PCR検査の結果を待つことなく指定ホテルへの移動が可能。隔離期間中、迅速抗原検査は毎日、PCR検査は5日目に行われ、5日目のPCR検査および6日目と7日目の迅速抗原検査の結果がすべて陰性であれば、指定隔離ホテルから出ることができます。

さらに6月1日以降、香港国際空港を乗り継ぎで通過する場合は、出発前48時間以内に実施された核酸検査の証明書を提示する必要がなくなりました。

[搭乗、隔離、検査に関する最新の措置は下記からご確認ください](https://www.coronavirus.gov.hk/eng/inbound-travel.html)
www.coronavirus.gov.hk/eng/inbound-travel.html

東鉄線延伸区間と新駅「会展」が開業

新界から香港島まで乗り換え不要に。新駅は香港コンベンション&エキシビションセンターに隣接

5月15日、MTR東鉄線の延伸区間が開通し、同線はビクトリアハーバーを海底トンネルで越える香港で4本目の路線となりました。新界北東部と中九龍、香港島を結びます。

紅磡（ホンナム）駅と金鐘（アドミラルティ）駅は新設された会展駅で結ばれ、両駅間の所要時間は19分から7分に短縮。金鐘駅は4路線が乗り入れる巨大乗換駅となり、さらに利便性が向上しました。



東鉄線の乗り入れに合わせて拡張オープンした金鐘駅



100年以上の歴史を持つ東鉄線の香港島延伸を記念して、重要な歴史的瞬間と同線の進化を収めた写真を会展駅のホームに展示

伊藤忠商事、Rights & Brands Asia 社に出資し人気アニメキャラクターを中華圏に

Rights & Brands Asia社（本社：香港）は、香港の PPW Sports & Entertainment、伊藤忠商事株式会社、フィンランドの Moomin Characters Oy、スウェーデンの R&B Licensing ABによる合併会社で、中華圏市場におけるブランドを扱うライセンスエージェントです。まずは、フィンランド発のアニメキャラクター「ムーミン」の中華圏における人気を生かし、ホーム&ファッションといった重要カテゴリーでのビジネスを成長させていく予定です。プロモーションパートナーとの連携を強化し、小売りおよびロケーションベースのエンターテインメント分野における新しい商機も開拓していきます。また近い将来、日本と欧州の新しいブランドも中華圏の消費者に紹介したいと考えています。

Rights & Brands Asia社CEOのLee氏は「香港は、豊富な法律、金融、ライセンス業務の専門家に恵まれ、中国本土やアジアのほとんどの市場に近く、中国語と英語の両方が広く使われているため、ライセンス業界にとって理想的な戦略拠点となっています」と語ります。



Rights & Brands Asia社
CEO Bianca Lee氏

胡鉅華首席代表代行が福岡と新潟を訪問

香港の変わらぬ強みをアピールし、両県企業に香港を活用して中国巨大市場の商機をつかむよう呼びかけ

香港経済貿易代表部の胡鉅華（トーマス・ウー）首席代表代行は3月16日と17日の両日、福岡を訪れました。

胡首席代表代行は3月17日、九州日本香港協会と香港貿易発展局が共催し、香港経済貿易代表部が協賛した香港春節昼食講演会に出席。この講演会は、今年の香港特別行政区設立25周年を記念して日本香港協会の各地方支部が国内の主要都市で開催を予定する一連のビジネスセミナーの皮切りとなりました。

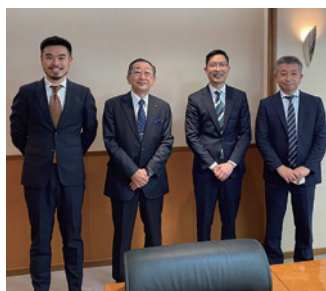
福岡での滞在中、胡首席代表代行は服部誠太郎知事を表敬訪問したほか、九州経済連合会や九州経済同友会など九州の主要な経済団体も訪問しました。香港の最新動向を紹介する中で、香港で事業を営む域外資本企業数は約9,000社に上っており、うち1,388社は日本企業で、これは外国企業中最多だと指摘。さらに、香港特別行政区政府は「一国二制度」、法の支配、司法の独立をこれからも堅持し、香港人も外国人もその権利と自由は基本法の下で完全に保護されていることを改めて伝えたとともに、中国本土市場の膨大なビジネスチャンスをつかむための跳躍台として、香港を活用してほしいと呼びかけました。



福岡での香港春節昼食講演会でスピーチをする胡鉅華（トーマス・ウー）首席代表代行



服部誠太郎福岡県知事（写真・右）を表敬訪問



九州経済同友会を訪問し、青柳俊彦代表委員（写真・左から2人目）らと意見交換



九州経済連合会（九経連）を訪問。写真右から3人目は九経連の倉富純男会長、左から3人目は香港貿易発展局の游紹斌（ベンジャミン・ヤウ）日本首席代表

胡首席代表代行は、5月9、10日には新潟を訪問しています。新潟日本香港協会と香港貿易発展局の共催、香港経済貿易代表部の協賛で5月10日に開催された香港特別行政区設立25周年記念昼食講演会に出席し、スピーチを行いました。前日には新潟商工会議所連合会を訪問。2021年に日本から輸出されたコメの35%以上（金額ベース）が香港向けで、その額も前年比18%の増加であることや、日本酒が香港の消費者の人気を集めていることを説明し、食品貿易、観光、文化交流の分野における香港と新潟の関係強化を訴えました。



新潟で行われた香港特別行政区設立25周年記念昼食講演会。写真左から、佐久間豊新潟県副知事、孫大剛中国駐新潟総領事、香港貿易発展局の游日本首席代表、新潟日本香港協会の吉田至夫会長、胡首席代表代行、中原ハーフ新潟市長



新潟商工会議所連合会の福田勝之会頭（写真・右）と

大阪アジア映画祭で香港映画 2 作品が受賞

合わせて3つの賞を獲得。チケット完売の「HONG KONG GALA SCREENING」では『黄昏をぶっ殺せ』を上映

3月10日から20日まで開催された第17回大阪アジア映画祭で、今年も特集企画「Special Focus on Hong Kong」が設けられ、計6本の香港映画が上映されました。そのうち、『アニタ』がコンペティション部門スペシャル・メンションと観客賞をダブル受賞。『はじめて好きになった人』はABCテレビ賞に輝きました。

また、3月18日には香港経済貿易代表部の協力で、特別上映イベント「HONG KONG GALA SCREENING」が大阪・ABCホールで開催されました。大阪アジア映画祭の主催者によると、「HONG KONG GALA SCREENING」で上映された『黄昏をぶっ殺せ』を含め、香港映画6作品はいずれも日本の観客に好評だったということです。



「HONG KONG GALA SCREENING」で挨拶をする香港経済貿易代表部の胡鉅華（トーマス・ウー）首席代表代行



『黄昏をぶっ殺せ』のリッキー・コー監督からのメッセージ動画も上映

ビクトリアハーバーを望む広大な40ヘクタール余の敷地に広がる西九龍文化地区は、アートや文化、エンターテインメントが集まる世界最大級の文化エリア。香港をアジア随一の芸術・文化ハブとして位置付けるものです。ここには、一年を通して中国伝統歌劇を上演する「戯曲センター」、アジア初の国際的な現代ビジュアルカルチャー美術館「M+」、北京・紫禁城の宝物を展示する「香港故宮文化博物館」（2022年開館予定）など、息を呑むような建築が立ち並び、ほかに、自転車も通行できる遊歩道やペット連れもOKの公園から、さまざまな屋内・屋外の公演会場まで、各種の施設が充実しています。西九龍文化地区の誕生で、多彩なアートと文化が息づき、自然に恵まれ、洗練されたライフスタイルを楽しめる香港の魅力に一層磨きがかかりました。香港はあらゆるものがつながって住みやすく、家族と暮らすにもふさわしい世界有数の都市なのです。

HK

ビジネスを育て、家族を育てる。生き生きと充実した毎日
香港 — そこは可能性が満ちる場所



brandhk.gov.hk

「香港ミニチュア展」を7月末から東京で開催

7月28日（木）～8月7日（日）、KITTE丸の内で開催。日本初公開となる作品も多数登場

香港特別行政区設立25周年を記念するシグネチャーイベントとして、香港経済貿易代表部は7月28日から8月7日の11日間、東京・KITTE丸の内1Fアトリウムで大規模な「香港ミニチュア展」を開催します。

本展では、香港らしさあふれる文化と大切にされている伝統、ユニークな街並みや日常生活の一コマをモチーフに、香港の作家たちが制作した約40点のミニチュア作品を展示予定です。作品を通して香港の進化を知り、そこに暮らす人々の前向きさに触れるとともに、東洋と西洋、新しいものと古いものが混ざり合い、創造性が花開く国際都市・香港を体感していただけることでしょう。



6月に香港のセントラルマーケットで開催されたミニチュア展の様。展示作品の多くが東京での「香港ミニチュア展」にお目見え予定



開催概要

日付：2022年 7月28日(木)～
8月7日(日)

会場：KITTE丸の内 アトリウム

主催：香港特別行政区政府
駐東京経済貿易代表部

協力：香港政府観光局、
キャセイパシフィック航空

〈入場無料〉

「香港ミニチュア展」に登場する約40点の作品の多くは日本初公開。注目作品の一部をご紹介します。



■維多利亞港 — ビクトリアハーバー
1/750スケール
潘麗瓊、張勁松とそのチーム、樂言社教育基金



香港の象徴・ビクトリアハーバーは、香港が「東洋の真珠」と呼ばれる由来でもある。幅3.5m、奥行き1.5m、高さ1mの大作で、完成には2年を要した。今年6月に香港で初めて展示され、東京での展示は海外初公開となる。

■観塘裕民坊 — 観塘の繁華街

1/76スケール

蔡璧龍、何國添、陳鴻輝



かつては工業地帯であった観塘。その中心部であり、今は再開発が進む裕民坊の往時のにぎやかな様子が再現されている。ARを通せば、花火や宇宙船が出現する仕掛けも。

■戲棚 — パンプーシアター

1/35スケール

何國添

祭りや祝日に伝統劇を上演するため、竹を組んで建てられる臨時の劇場。香港独特のこの建築に注ぎ込まれた職人技と劇場のにぎわいを伝えようと、作者は1,000個以上の電球の一つ一つ色を塗り、花看板も手作りした。



■水郷棚映 — 大澳の棚屋

1/76スケール 陳鴻輝



ランタオ島の南西部に位置する大澳は、「香港のベニス」とも称されるのどかな漁村。棚屋と呼ばれる水上家屋が水路に並ぶ様は、どこか懐かしさを感じさせる。作品の水面に映る棚屋は本物と見紛うほどの出来映え。

■金記餅家 — 中華焼き菓子の老舗

1/12スケール 李嘉蓮



深水埗にある老舗の中華菓子店を参考にした作品。店にはエッグタルトや豆沙酥（小豆あん入りパイ）、芝麻餅（ごまクッキー）などの焼き菓子が所狭しと並んでいる。作りかけの生地が置かれた作業台の下には、のんびりとくつろぐ猫の姿が。

■俊男茶樓 — レトロな飲茶店

1/43スケール 陳鴻輝



香港では1850年代ごろから飲茶を楽しむ「茶樓」が登場。昔は自慢の愛鳥を連れて来店する客も多かったため、作品でも店内の窓際に鳥かごが並んでいる。小さな鳥かごの中のさらに小さな鳥から、天井のファン、階段脇のモザイクタイル、外の露天商まで、すべてが丁寧に作り込まれている。

SPOTLIGHT HONG KONG

西九龍文化地区のM+で、戦後から現在までの香港の変容を捉えた「Hong Kong: Here and Beyond」展が今年11月まで開催中です。展示は、Here（この地）、Identities（アイデンティティ）、Places（場所）、Beyond（彼方）の4つの章に分かれており、さまざまな角度の視点から香港のビジュアルカルチャーを紹介しています。



M+メインホールギャラリーで開催中の「Hong Kong: Here and Beyond」展

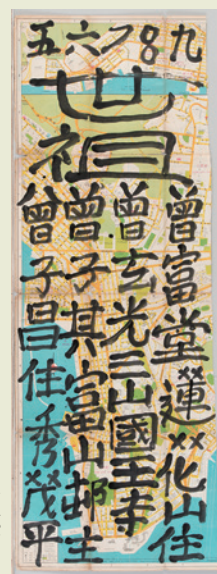
Photo by Lok Cheng, M+

香港の都市景観を切り取ったマイケル・ウルフの写真は、その抽象化されたパターン、フォルム、そして繰り返しから生まれる美を捉えています。Architecture of Density（密集建築）シリーズでは、高層住宅やオフィスビルだけでなく、街の歴史をたどる建築物にも目を向けます。九龍の彩虹邨を撮影した写真は、ウルフの作品の中でも特に良く知られていますが、それは中国語で「虹」を意味する名を冠したこの団地のカラフルな色合いが大きな理由でしょう。



Michael Wolf
Architecture of Density #8b,
2005
Chromogenic print
M+, Hong Kong
© Michael Wolf Estate

曾灶財（ツァン・チョウ・チョイ）は1950年代から約50年間にわたり「九龍皇帝」の名で活動し、街中の壁や郵便ポスト、柱などに独特な書道作品を残しました。その作品はどの流派や系統にも属さず、完全に曾独自の創造的表現となっています。



Tsang Tsou-choi
(King of Kowloon)
Ink on printed paper
M+, Hong Kong
© Tsang Tsou-choi /
King of Kowloon

[写真提供：M+]

香港特別行政区政府 駐東京経済貿易代表部（香港経済貿易代表部）

〒102-0075 東京都千代田区三番町30番1号 香港経済貿易代表部ビル
Tel：03-3556-8980 Fax：03-3556-8970（代表部）
Tel：03-3556-8961 Fax：03-3556-8960（投資推進室）
E-mail：tokyo_enquiry@hketotyo.gov.hk

f www.facebook.com/hketo.tokyo/
@ www.instagram.com/hketo.tokyo/
www.twitter.com/hketotokyo

香港特別行政区政府
ポータルサイト

www.gov.hk

政府広報局提供の
無料ニュースサービス

www.news.gov.hk

ブランド香港
Facebookページ

www.facebook.com/brandhk.isd

香港経済貿易代表部の
ホームページです！

www.hketotyo.gov.hk

